

# 国際経済の授業の作り方とは？

明治大学文学部特任教授

藤井 剛

2024年3月23日(土)

於 慶應義塾大学北館3階 大会議室

# 1. 授業づくりの前提

(1) 中学校社会科の年間授業時間・配当(学習指導要領より)

①1年生と2年生:地理と歴史を並行履修し、合計「105時間」

②3年生:初めに歴史を「40時間」、その後公民を「100時間」

☆社会科の授業時間は「1、2年の授業数<3年の授業数」

☆概ね、歴史を6月まで、7月以降を公民学習とする。

☆実態は?? →9~10月に公民が始まる?

→教科書のゴシックを教え込む授業?

### ③ある中学校教科書の国際経済分野(各1時間)

#### ☆2月からの授業計画

- A. 地域主義の動き
- B. 新興国の台頭と経済格差
- C. 地球環境問題
- D. 資源・エネルギー問題
- E. 貧困問題
- F. 世界と協力する日本

## (2) 高等学校公民科の年間授業時間・配当

### ① 公共(2単位70時間中)中、ある教科書の授業計画(各1時間)

- A. 貿易のしくみ: 自由貿易と保護貿易、GATT—WTO体制、  
国際収支統計、リカードの比較生産費説など
- B. 国際金融のしくみと動向: 為替のしくみと外国為替市場、  
国際通貨制度など
- C. グローバル化と今日の国際経済: 現在の国際経済秩序と動  
き、地域統合の歴史と現在など
- D. 国際経済の諸課題: 南北問題の背景と推移、人口・食料問  
題、格差の是正に向けた取り組みなど

## ②政治・経済(2単位70時間中)

シラバス案では、下記項目は1～3月に履修予定

- A. 貿易と国際収支
- B. 戦後国際経済体制の展開
- C. 発展途上国の経済
- D. グローバル化する世界経済
- E. 地球環境問題
- F. 資源・エネルギー問題
- G. 人口・貧困・感染症
- H. グローバル化にともなう社会変容
- I. 地球環境と資源・エネルギー問題
- J. 国際的な経済格差の是正
- K. イノベーションの促進と成長
- L. 市場持続可能な社会の実現 など

## 2. 現職時代の授業づくり

例1: 新聞などで、10年スパンの「円安トレンド」を読み取らせ  
「円安ドル高はなぜ起きるのか？」を考察したり、確認したりする授業



為替の仕組みと外国為替市場(需給曲線の復習を含む)、金利差などを理解させ、「円安ドル高はなぜ起きるのか？」を考察させる。

☆時間があれば、国際通貨制度のあゆみ(IMF体制)なども扱う。

例2: クラス40名を10グループに分け、例えば「バングラデシュ」への「ODA」を計画させ、各グループ5分でプレゼンする。

① 社会、経済、政治等、様々な角度から被援助国の現状を分析する。

☆ 調査・プレゼン準備時間は6時間。7限目にプレゼン、8限目に講評と講義を行う。

② 被援助国にとって最適な援助計画を立案する。なお援助対象は、「医療」「教育」「インフラ」のうちから1項目に絞る。資金の上限はない。

③ 援助形態は「二国間援助」。日本が直接、相手国に「有償資金協力」、「無償資金協力」、「技術協力」等を行うものとする。

### 3. 科研費研究での授業づくり

#### (1)「18歳成年」教材作成プロジェクト

- ①「大人になるとは？」分科会
- ②「シチズンシップ」分科会
- ③「法的責任」分科会
- ④「消費者の責任」分科会
- ⑤「労働」分科会
- ⑥「生活設計」分科会

☆ 家庭科と公民科の教員が協働して教材を作成する。

## (2) 18歳成年と「消費者の責任」

①消費者教育：自らの消費行動が社会経済情勢及び地球環境に影響を及ぼし得るものであることを自覚して、公正かつ持続可能な社会の形成に向けて担い手となる「消費者市民」を育成

②2018年告示高等学校学習指導要領

A. 公共⇒ C. 持続可能な社会づくりの主体となる私たち

B. 家庭基礎・家庭総合⇒ C. 持続可能な消費生活・環境

③SDGsの「目標12: つくる責任つかう責任(持続可能な消費と生産のパターンを確保する)」の教材化

→自らの消費行動が社会や環境に与える影響を、批判的思  
考を養いながら自覚して考えられるような教材作成を目指す。



○「生産者」「製造者」「販売者」「消費者」の役割で、初期ポイント、給料、生活費が異なる

・誰かがポイントがなくなる(破産)したらGAME OVER。⇒全員が振り出しに戻って、再スタート

○すごろくのマス、「?カード」

現実に関じた事件や現象を参考に、アクシデントを用意して4者の立場で影響を受ける

<マス目の例>

食品偽装問題が発覚。消費者は高価でも安全なものを求め始めた。

A: -10 B: -10 C: -10 D: -20

(A: 生産者) (B: 製造者) (C: 販売者) (D: 消費者)

?カードの例

パームオイルのプランテーションが拡大され、家のある場所を農園にされ、住む家を追われてしまった。

A: -20 B: +30 C: +20 D: +10

(A: 生産者) (B: 製造者) (C: 販売者) (D: 消費者)

○環境イベントなどに参加すると

**ACTIONCARD**カードが引ける。

(「フェアトレード」、「3R」など)

⇒持っている、アクシデント時に助かるしくみ

チョコレートの需要が高まり、カカオやパーム油の収穫に子供の手が必要だ。児童労働でイメージダウン。

AとB: -10 C: -20 D: ±0

ただし誰かがフェアトレードカードを出せば

AとB: +10 C: ±0 D: -10

### (3)「すごろく」を利用した授業

#### ①「すごろく」の特性

→生産者・製造者・販売者・消費者に分かれてゲームを行うが、主に「生産者」が破産することが多くなるように設定されている。

②なぜ生産者が破産することが多いのかを考察させていく。その際、「ザ・トゥルー・コスト」(DVD)を視聴させる。

### ③家庭科:「自分の問題」として捉えさせる授業

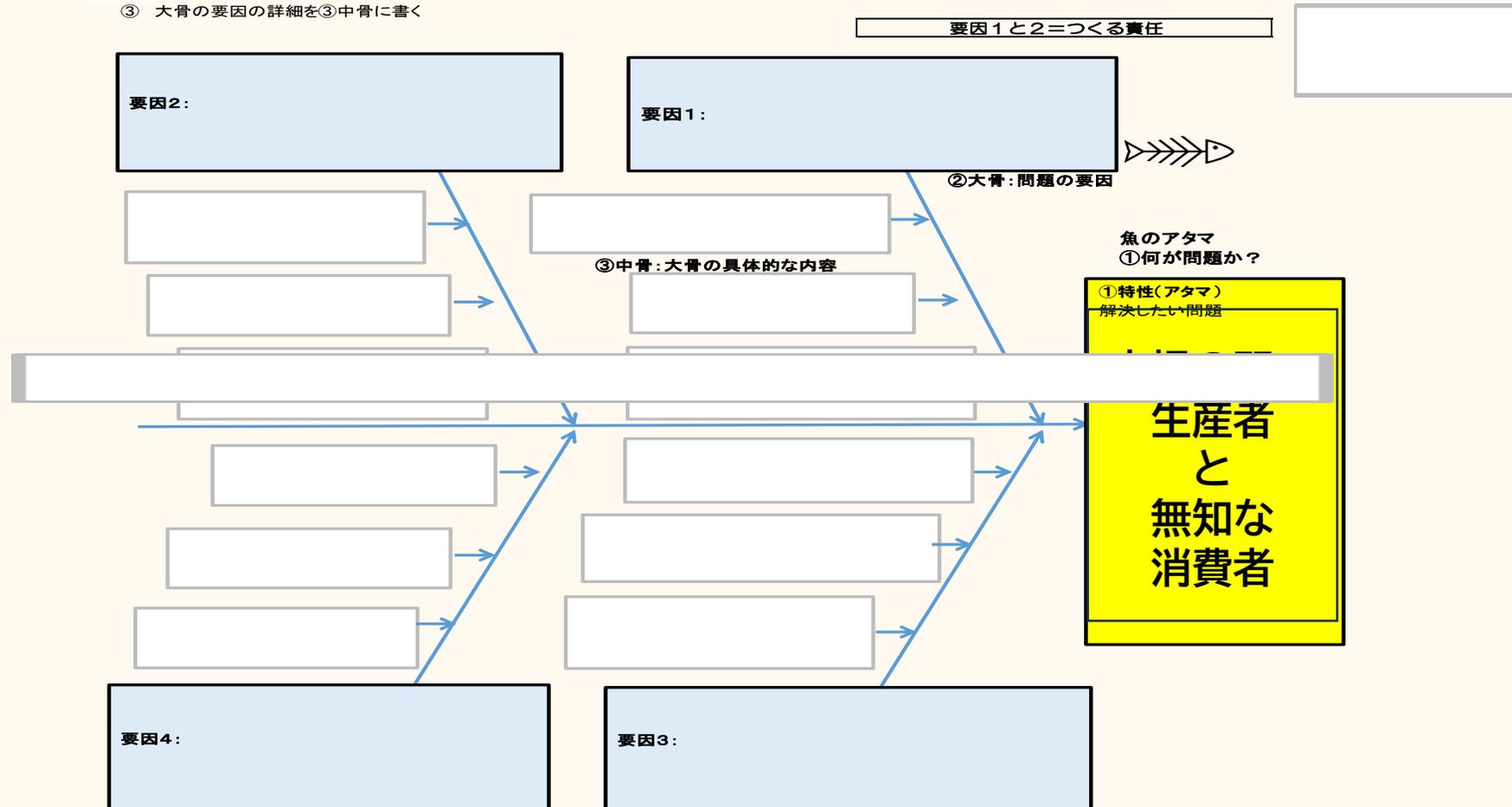
#### 「衣料」についての生徒の感想

- ・購入:衣服ロスグラフを見てみると、2018年までで衣服の調達数量は増加傾向にあるのに、消費数量は横ばいである。流行があることで大量生産が助長されているので、流行に流されて次々と無責任に服を買わないようにする。
- ・使う:一人当たりの衣服消費、利用状況を見てみると、一回も着用しない服が一人当たり25着もある。服を買った後に使わないのは新しい服を買い続けることにつながり、今ある服で足りないかどうかを考えることが必要である。
- ・破棄:着られなくなった服の末路の写真を見てみると、膨大な捨てられた衣服が山のように積みに重なっている。捨てられた服は目の前からはなくなるがどこかでごみとして残るので、捨てなくて済むようにリサイクルなどをする。

# ④公民科：「国際経済（貿易）構造」から考察させる授業 →「特性要因図」（フィッシュボーンチャート）

## 書き方

- ① 魚のアタマを書く。どんな事象が起きていて、特に解決すべきとする内容。
- ② 大骨の青色四角に書く。大きな要因を4つ。  
要因1と2は、「つくる責任」。下の要因3と4は「つかう責任」
- ③ 大骨の要因の詳細を③中骨に書く



# まとめと課題

- 定量的な分析はできていないが、事前アンケートでは過半数がネット通販を利用していたクラスもあった。
- 設問 1 ネット通販のSHEIN（シーイン）を利用した回数を選んでください。利用していない場合は4を選ぶ。⇒事前アンケートでは、36人中20名が利用しているクラスもあり。



設問 SHEINで購入したことがある人だけ回答してください。SHEINについて、あなたの考えを自由に書いて下さい。

- ・金がない学生の味方
- ・安くてほとんどの物は満足できる。
- ・値段相応の服なので買いやすさがある
- ・とても優秀
- ・安く欲しいものが買えるのでいいと思う
- ・安くてかわいい商品がたくさんあるからいろいろな服を着ることができる
- ・安くてかわいくてよかった。
- ・安く提供されているのでとても需要と供給がなっていると思います。
- ・届くのは遅めだけどコスパなどもいいからいいと思う
- ・洋服とかは微妙なもの多いけど雑貨は結構使える！ 安くて可愛くて買いやすい

▲ 不安要素があるが、使えるお金が限られているのでSHEINを利用する。

▲ 働かせられている人が商品を作っていると聞いたことがあるので、買うことをなるべく少なくしている。

▲ 正直他ブランドをパクってるものも多くあるから、購入時にちょっとだけ罪悪感はある！

千葉県立津田沼高校荒木先生作成資料

☆お小遣いという上限がある高校生の消費行動を変えることは出来るのか？  
→トレード・オフの問題をどのように解消するのか？

## 4. ここまでのまとめ

### (1) 公民科の国際経済単元のオリジナルティとは？

#### ① 公民科の目標

「**広い視野に立って**，現代の社会について主体的に考察させ，理解を深めさせるとともに，人間としての在り方生き方についての自覚を育て，平和で民主的な**国家・社会の有為な形成者**として必要な公民としての資質を養う。」

(学習指導要領より)

## ☆参考 家庭科の目標(学習指導要領より)

生活の営みに係る見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を通して、様々な人々と協働し、**よりよい社会の構築に向けて**、男女が協力して主体的に**家庭や地域の生活**を創造する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 人間の生涯にわたる発達と生活の営みを総合的に捉え、家族・家庭の意義、家族・家庭と社会との関わりについて理解を深め、家族・家庭、衣食住、消費や環境などについて、生活を主体的に営むために必要な理解を図るとともに、それらに係る技能を身に付けるようにする。
- (2) 家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなど、生涯を見通して生活の課題を解決する力を養う。
- (3) 様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活を主体的に創造しようとする実践的な態度を養う。

## ②国際経済単元について

- A. 国際経済(貿易)システムの中で「原材料輸出国」「生産国」「消費国」の関係を捉え、システム改善の方向性を考察する。  
例) 一次産品の値上げや保障(UNCTAD、ロメ協定など)
- B. 途上国への支援(フェアトレード、ビジネス、ODAなど)を考察する際も、「何が課題か」「原因は何か」「原因を取り除く方策は何か」を、資料等を用いながら分析すべき。

### 例) 島田先生の資料

- ・なぜ途上国は先進国へのコーヒー供給地になった？
- ・早すぎる「脱工業化」と2つのキーワード
- ・フェアトレードの価格形成は？
- ・フェアトレードとは？

C. 国際経済は、国際経済分野だけでは完結しない。

→国連、グッド・ガバナンス(人間の安全保障)、民族対立、  
支援国の経済情勢や国民意識 など

☆多面的な思考力・分析力形成の必要性

D. カリキュラム・マネジメントの必要性

a. 他教科(家庭科など)

→重複分野の調整や棲み分け、コラボ授業

b. 外部専門家

→専門家の知見を取り入れる

など